

法然上人のご法語 第十五 信行双修 しんぎようそうしゆ

「一念十念に往生をす」といえばとて、念仏を疎相に そそう
申すは、信が行を妨ぐるなり。 さまた

「念々不捨者」 ねんねんふしやしや といえばとて、一念を不定に思うは、 ふじょう
行が信を妨ぐるなり。信をば一念に生まると信じ、
行をば一形に励むべし。 いちぎやう

また、一念を不定に思うは、念々の念仏ごとに、
不信の念仏になるなり。その故は、阿弥陀仏は一念
に一度の往生をあて置き給える願なれば、念ごとに しん
往生の業となるなり。

「一念十念に往生をす」

阿弥陀仏の誓願をしっかりと信じていれば、十念、あるいは
ただ一度の念仏でも極楽浄土に救われる、という教え。

「念々不捨者」

経本1ページ、善導大師の言葉。常に念仏から離れない人が
阿弥陀仏に救われる、という教え。



「不定」

往生が定まらない。救われるかどうか分からない。

法然上人行状絵図より